

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-155190

(P2007-155190A)

(43) 公開日 平成19年6月21日(2007.6.21)

(51) Int. Cl.

F 2 4 C 15/10 (2006.01)

F I

F 2 4 C 15/10

B

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2005-349693 (P2005-349693)

(22) 出願日 平成17年12月2日 (2005.12.2)

(71) 出願人 000112015

パロマ工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区桃園町6番23号

(74) 代理人 100078721

弁理士 石田 喜樹

(72) 発明者 雄本 秀樹

名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 パロマ
工業株式会社内

(72) 発明者 小島 久雄

名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 パロマ
工業株式会社内

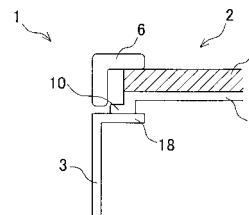
(54) 【発明の名称】 テーブルコンロ

(57) 【要約】

【課題】天板の美観を損なうことなく、ガラス板の落下等を確実に防止することができるテーブルコンロを提供する。

【解決手段】ガラス板4の裏側に、ガラス板4を支持する裏板7を設置し、該裏板7をコンロ本体3の上フランジ部18上に載置した状態で天板2をコンロ本体3に固着した。したがって、ガラス板4と外枠6との接着が不用意に外れることによるガラス板4の落下といった事態の発生を確実に防止することができる。また、ガラス板4の落下の確実な防止に伴い、ガラス板4と外枠6との接着面積（接着のための幅）を従来よりも狭く抑えることができるため、ガラス板4の設計自由度等が増し、より機能的なガラストップコンロを提供可能とすることができる上、天板2の美観の向上にもなる。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

コンロ本体上に、周囲を外枠によって囲まれたガラス板を天板として備えたテーブルコンロであって、

前記ガラス板の裏側に、前記ガラス板を支持する裏板を設置し、該裏板を前記コンロ本体上に載置した状態で、前記天板を前記コンロ本体に固着したことを特徴とするテーブルコンロ。

【請求項 2】

天板に、コンロ本体と係合可能な係合部を設けるとともに、コンロ本体と固着する固着部を設け、

前記係合部をコンロ本体と係合させた状態で、前記固着部とコンロ本体とを固着することによって、前記天板を前記コンロ本体に固着したことを特徴とする請求項 1 に記載のテーブルコンロ。

【請求項 3】

裏板に、ガラス板に開設された熱源用開口と対応する開口を設け、該開口縁部を、前記ガラス板の熱源用開口縁を覆うように装着される保護リングと該保護リング上に設置される五徳とを取り付けるための取付部としたことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のテーブルコンロ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ガラス板を天板として有するテーブルコンロに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、テーブルコンロ等において、天板としてガラス製の薄板を採用したものが知られている。このような天板をガラス製とするテーブルコンロにあっては、ガラスが比較的衝撃に弱いという問題を解決すべく、たとえば特許文献 1 に記載されているように、ガラス製の天板を外枠に接着し、該外枠をコンロ本体に取り付けることによって、ガラス製の天板がコンロ本体側から直接衝撃を受けないようにした構成を採用している。

【0003】

【特許文献 1】特開 2003-329247 号公報

【0004】

ここで、特許文献 1 に開示されている天板の取付に係る構造について、図 5 を基に説明する。図 5 は、従来のテーブルコンロにおける天板の取付部分の断面を示した断面説明図である。

テーブルコンロ 50 は、上面に開口を有するコンロ本体 58 と、開口を覆うようにコンロ本体 58 に取り付けられる天板 51 とを備えてなるものである。天板 51 は、ガラス製の薄板であるガラス板 52 と、ガラス 52 の外周縁に接着剤 54 により接着された外枠 53 とからなるものである。外枠 53 は、ガラス板 52 の外周縁上面を覆うフランジ部 55 と、該フランジ部 55 より下方へと垂設された取付部 56 とを備えている。また、取付部 56 には、固定ネジ 60 を挿入可能な螺着孔 57a が穿設されている。一方、コンロ本体 58 の上部側面にも、固定ネジ 60 を挿入可能な螺着孔 57b が穿設されている。

【0005】

このようなテーブルコンロ 50 は、以下のようにして組み立てられる。

まず、ガラス板 52 と外枠 53 とを接着して天板 51 を形成する。そして、開口を覆うように天板 51 をコンロ本体 58 上に載置し、螺着孔 57a、57b を合わせて、固定ネジ 60 により天板 51 をコンロ本体 58 に固着する。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

10

20

30

40

50

しかしながら、特許文献 1 に開示されているような、接着剤によりガラス板と外枠とを接着する構成では、天板を運搬したりコンロ本体へ取り付けたりする際に、ガラス板の自重により接着剤が剥がれてしまい、ガラス板が落下してしまう事態が起こりやすいといった問題がある。また、より強固にガラス板と外枠とを接着するためには、接着面積を広く確保しなければならないことから、外枠のフランジ部により覆われてしまうガラス板の面積が増し、天板の意匠性・美観を損なってしまうという問題もある。

【0007】

そこで、本発明は、上記問題に鑑みなされたものであって、天板の美観を損なうことなく、ガラス板の落下等を確実に防止することができるテーブルコンロを提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するために、本発明のうち請求項 1 に記載の発明は、コンロ本体上に、周囲を外枠によって囲まれたガラス板を天板として備えたテーブルコンロであって、前記ガラス板の裏側に、前記ガラス板を支持する裏板を設置し、該裏板を前記コンロ本体上に載置した状態で、前記天板を前記コンロ本体に固着したことを特徴とする。

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 の発明において、天板に、コンロ本体と係合可能な係合部を設けるとともに、コンロ本体と固着する固着部を設け、前記係合部をコンロ本体と係合させた状態で、前記固着部とコンロ本体とを固着することによって、前記天板を前記コンロ本体に固着したことを特徴とする。

請求項 3 に記載の発明は、請求項 1 または 2 の発明において、裏板に、ガラス板に開設された熱源用開口と対応する開口を設け、該開口縁部を、前記ガラス板の熱源用開口縁を覆うように装着される保護部材と該保護部材上に設置される五徳とを取り付けるための取付部としたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、ガラス板の裏側に、ガラス板を支持する裏板を設置し、該裏板をコンロ本体上に載置した状態で、天板をコンロ本体に固着しているため、コンロ本体上にてガラス板は裏板により下方から支持されることになる。したがって、外枠からの不用意な脱却によるガラス板の落下といった事態の発生を確実に防止することができる。また、ガラス板の落下を確実に防止できることに伴って、ガラス板と外枠とを接着している場合には、接着面積（接着のための幅）を従来よりも狭く抑えることができる。したがって、ガラス板の設計自由度等が増し、より機能的なガラストップコンロを提供可能とすることができる上、天板の美観の向上にもなる。

また、請求項 2 の発明によれば、天板に、コンロ本体と係合可能な係合部を設けるとともに、コンロ本体と固着する固着部を設け、係合部をコンロ本体と係合させた状態で、固着部とコンロ本体とを固着することによって、天板をコンロ本体に固着している。したがって、ネジ等を用いた固着部を従来よりも少なくしたとしても、天板をコンロ本体に確実に固着することができる。さらに、固着部を少なくすることができるため、ネジの螺着作業等に係る時間や手間を従来よりも抑えることができ、天板とコンロ本体とを容易に組み立てることができる。

加えて、請求項 3 の発明によれば、裏板に、ガラス板に開設された熱源用開口と対応する開口を設け、該開口縁部を、ガラス板の熱源用開口縁を覆うように装着される保護部材と該保護部材上に設置される五徳とを取り付けるための取付部としている。つまり、裏板の設置により、従来では各開口毎に取り付けていた下リングに相当する開口縁部が自動的に位置決めされることになるため、従来のテーブルコンロと比較して、保護部材の装着作業及び五徳の設置作業、ひいてはテーブルコンロの組立作業を迅速且つ容易に行うことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

10

20

30

40

50

以下、本発明の一実施形態となるテーブルコンロについて図面を基に説明する。

図 1 は、テーブルコンロ 1 の天板 2 を上方から見た説明図である。図 2 は、天板 2 を後方から見た説明図であり、図 3 は、天板 2 を左側から見た説明図である。また、図 4 は、天板 2 とコンロ本体 3 との取り付け部分を示した断面説明図である。尚、図 1 における上下方向をテーブルコンロ 1（天板 2）の前後方向としており、図 1 における下方がテーブルコンロ 1（天板 2）の正面側となる。

【0011】

テーブルコンロ 1 は、上面に開口が開設されたコンロ本体 3 と、開口を覆うようにコンロ本体 3 に取り付けられる天板 2 とからなる。天板 2 は、上面にコーティングが施されたガラス製の薄板であるガラス板 4 と、ガラス板 4 の後方に設置される中板 5 と、ガラス板 4 及び中板 5 を囲むように取り付けられるアルミ製の外枠 6 と、ガラス板 4 及び中板 5 の裏側に設置される裏板 7 とを備えてなる。

【0012】

ガラス板 4 は、バーナを設置するための熱源用開口を 2 つ開設したものであって、その外周縁（後端縁を除く）には、断面 L 字状の外枠 6 がガラス板 4 の外周縁上面を覆うように取り付けられている。また、ガラス板 4 の後端縁は、外枠 6 への設置状態において、その後端縁上面に中板 5 が接着された状態となっている。中板 5 は、グリル排気用の開口等を備えてなるものであって、その周囲（前側を除く）は外枠 6 に接着されている。尚、外枠 6 には、裏板 7 の左右側縁部に突設された係止片（図示せず）が係止可能な凹部（図示せず）が設けられており、後述の如き状態で裏板 7 を支持可能としている。

【0013】

また、ガラス板 4 の裏側に設置される裏板 7 は、金属製の薄板により形成されたものであって、略ガラス板 4 と中板 5 とを合わせた大きさ及び形状を有している。該裏板 7 の左右側縁部には、外枠 6 の凹部に係止可能な複数の係止片が夫々外側方向（左側縁では左方向、右側縁では右方向）へと突設されているとともに、コンロ本体 3 上に当接して自身を支持する支持片 10 が、夫々外側方向へと一体的に突設されている。該支持片 10 は、裏板 7 の各側縁において複数設けられている。また、裏板 7 の前端には、下方へと突出するとともに後方へと湾曲した複数の係合爪（係合部）11、11・・・が一体的に設けられている。一方、裏板 7 の後端には、ネジを挿通可能な丸孔 19、19 を有し、コンロ本体 3 に固着される固着部となる固着片 17、17 が下方へと突設されている。さらに、裏板 7 には、ガラス板 4 の裏側への設置時においてガラス板 4 の熱源用開口と対応する位置に、各熱源用開口と同形状の開口 12、12 が開設されている。各開口 12 は、対応するガラス板 4 の熱源用開口よりも若干小径に形成されており、ガラス板 4 の裏側に設置されると、各開口 12 の縁部が、ガラス板 4 の熱源用開口よりも内側へと突出した状態となり、内フランジ部（取付部）13 として機能する。該内フランジ部 13 には、後述の如くしてガラス板 4 の熱源用開口縁を覆う保護リング（保護部材）20 を取り付けするための複数の取付孔（図示せず）が穿設されているとともに、各開口 12 の上方に設置される五徳（図示せず）を位置決めするための切り欠き 14、14・・・が設けられている。このように構成される裏板 7 は、その係止片を外枠 6 の凹部に係止させた状態でガラス板 4 の裏側に設置される。尚、該設置状態において、裏板 7 の上面とガラス板 4 の裏面とは当接した状態となっている。

【0014】

一方、コンロ本体 3 の上部は、コンロ内側へと折り曲げられた状態となっており、該折り曲げ部は、裏板 7 の支持片 10 が当接可能な上フランジ部 18 として機能する。また、コンロ本体 3 の後側上部であって、天板 2 設置時に各固着片 17 の丸孔 19 に夫々対応する位置には、ネジを挿通可能な丸孔（図示せず）が穿設されている。さらに、天板 2 設置時に裏板 7 の係合爪 11、11・・・と対応する位置には、係合爪 11、11・・・と係合可能な係合片（図示せず）が設けられている。

加えて、裏板 7 の内フランジ部 13 に取り付けられる保護リング 20 は、鐔状に形成された被覆部によりガラス板 4 の熱源用開口縁を保護するものであって、内フランジ部 13

に穿設された取付孔に挿入可能な複数の取付片（図示せず）を備えてなるものである。取付片は、保護リング２０の下方へと突設されており、該取付片を内フランジ部１３に穿設された取付孔へと挿入した後、開口外側へと折り曲げることによって、保護リング２０を内フランジ部１３に取付可能としている。

【００１５】

ここで、上述の如く構成されるテーブルコンロ１の組立作業について以下説明する。

まず、中板５を接着により外枠６に取り付けた後、ガラス板４を外枠６に接着する。尚、この際、ガラス板４と中板５とを、中板５によりガラス板４の後端縁上面を覆った状態で接着する。

次に、裏板５を撓ませながら、左右の係止片を外枠６の凹部に係止させることによって、ガラス板４及び中板５の裏側で裏板７を外枠６に支持させる。該支持状態において、裏板７の上面は、ガラス板４の裏面に当接した状態となっている。尚、外枠６による裏板７の支持に伴い、ガラス板４の各熱源用開口と裏板７の各開口１２とは、自動的に対応する位置に位置決めされることになる（すなわち、各開口１２縁部が内フランジ部１３として機能する）。

さらに、各内フランジ部１３に保護リング２０をそれぞれ取り付けて、天板２を組み立てる。

このようにして組み立てた天板２を、裏板７の前端に設けられた係合爪１１、１１・・・をコンロ本体３の係合片に係合させた状態で後方へと倒すことによって、コンロ本体３上に載置する（天板２が、支持片１０によりコンロ本体３の上フランジ部１８上に載置された状態となる）。

そして、天板２の後部（裏板７の後端）に設けられた固着片１７、１７とコンロ本体３とをネジにより螺着することによって、天板２をコンロ本体３に固着し、テーブルコンロ１の組立作業は完了となる。尚、五徳は、内フランジ部１３に形成された切り欠き１４、１４・・・により定められる所定の姿勢・向きにて保護リング２０上に設置すればよい。

【００１６】

以上のようなテーブルコンロ１によれば、天板２において、ガラス板４の裏面に当接するように裏板７を設置する構成としているため、ガラス板４は、コンロ本体３上にて裏板７により下方から支持されることになる。したがって、ガラス板４と外枠６との接着が不用意に外れることによるガラス板４の落下といった事態の発生を確実に防止することができる。また、ガラス板４の落下の確実な防止に伴い、ガラス板４と外枠６との接着面積（接着のための幅）を従来よりも狭く抑えることができるため、ガラス板４の設計自由度等が増し、より機能的なガラストップコンロを提供可能とすることができる上、天板２の美観の向上にもなる。

【００１７】

また、ガラス板４の裏側にガラス板の熱源用開口よりも若干小径に形成された開口１２、１２を有する裏板７を設置するため、裏板７の設置に伴い、開口１２縁部に内フランジ部１３が自動的に形成されることになる。そして、この内フランジ部１３に、保護リング２０や五徳を設置すればよい構造としている。したがって、各開口毎に下リングを取り付けるとともに上リングを嵌入しなければならない従来のもものと比較して、保護リング２０の装着作業、ひいてはテーブルコンロ１の組立作業を迅速且つ容易に行うことができる。

【００１８】

さらに、裏板７の前端にコンロ本体３側に係合可能な係合爪１１、１１・・・を設けるとともに、裏板７の後端にコンロ本体３と固着するための固着片１７、１７を設けている。そして、ガラス板４や裏板７等により天板２を形成した後、係合爪１１、１１・・・をコンロ本体３の係合片に係合させ、該係合状態にてコンロ本体３上に天板２を載置し、固着片１７、１７とコンロ本体３とを螺着することによって、コンロ本体３に対し天板２を固着している。したがって、ネジによる螺着部が少ないにも拘わらず天板２をコンロ本体３に確実に固着することができる上、ネジの螺着作業等に係る時間や手間を従来よりも抑えることができ、天板２とコンロ本体３とを容易に組み立てることができる。

【0019】

加えて、内フランジ部13に五徳を位置決めするための切り欠き14、14・・を設けているため、裏板7の設置に伴い五徳位置決め用の切り欠き14、14・・が所定の位置に確実に位置決めされることになる。したがって、従来のように保護リングを設置するたびに五徳を設置するための切り欠き等の位置が変わるといったことがなく、五徳の設置作業を非常に迅速に行うことができる上、保護リング20上に設置される五徳の姿勢・向きを常に一定に保つことができる。

【0020】

なお、本発明のテーブルコンロに係る構成は、上記実施形態の態様に何ら限定されるものではなく、ガラス板、裏板、外枠、中板、及びコンロ本体等の形状や構成等を、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で必要に応じて適宜変更することができる。

【0021】

たとえば、上記実施の形態では、裏板に設けられた係合爪を、コンロ本体に設けられた係合片に係合させる構成としているが、コンロ本体に係合片を設けるのではなく、コンロ本体の左右に亘って小径な棒状部材を設置し、該棒状部材に裏板の係合爪に係合させるような構成としても何ら問題はない。また、上記実施の形態では、裏板に係合爪や固着片を設ける構成としているが、係合爪や固着片を夫々別体に形成し、裏板や中板、外枠等に別途設置するような構成としてもよい。さらに、固着片や係合爪等の数や設置位置も適宜変更可能であるし、その形状等も上記実施の形態のものに何ら限定されることはない。加えて、裏板の大きさや形状等も適宜変更可能である。つまり、少なくともガラス板を支持する形状であればよく、上記実施の形態の如く、中板の裏側までもを覆わないようなものであっても何ら問題はない。

また、裏板を外枠に支持させる構成も上記実施の形態に何ら限定されることはなく、外枠に凹溝を設け、裏板の外周部を直接凹溝に係止させるような構成（つまり、係止片を設けない構成）としてもよい。

【0022】

さらに、上記実施の形態では、ガラス板の裏面と裏板の上面とを当接させる構成としているが、ガラス板と裏板との間にクッションとなる緩衝部材等を介在させる（すなわち、裏板上面に緩衝部材を設ける）ような構成としても何ら問題はない。

加えて、裏板に設ける開口は、上記実施の形態の如く、必ずしもガラス板の熱源用開口よりも小径に形成する必要はなく、略同径に形成するとともに、保護リングの取付片を折り曲げてカシメることによって、保護リングを裏板の開口縁部に取り付けるような構成としてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】テーブルコンロの天板を上方から見た説明図である。

【図2】天板を後方から見た説明図である。

【図3】天板を左側から見た説明図である。

【図4】天板とコンロ本体との取り付け部分を示した断面説明図である。

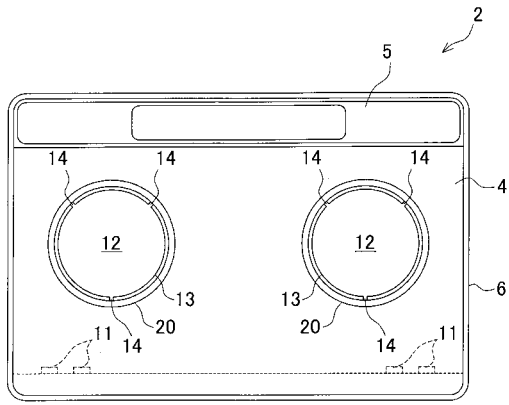
【図5】従来のテーブルコンロにおける天板の取付部分の断面を示した断面説明図である。

【符号の説明】

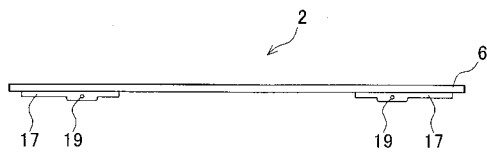
【0024】

1・・テーブルコンロ、2・・天板、3・・コンロ本体、4・・ガラス板、5・・中板、6・・外枠、7・・裏板、10・・支持片、11・・係合爪、12・・開口、13・・内フランジ部、14・・切り欠き、17・・固着片、18・・上フランジ部、19・・丸孔、20・・保護リング。

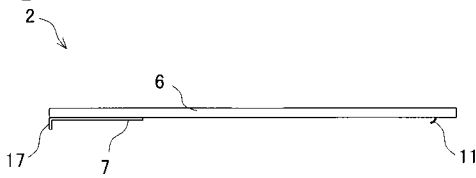
【図 1】



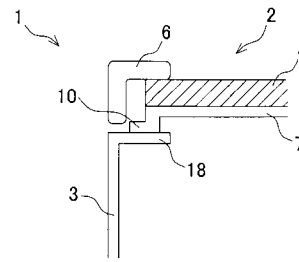
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

